

New Growth

新たな成長ステージを迎えた海外事業

グローバル化を推進し、 「世界のSBI」へ

SBIグループは各国の有力な金融グループ、政府系投資機関や大学の投資機関などのJVファンド設立により、新興国を中心に幅広い地域をカバーするグローバルな投資体制の構築をほぼ完了しました。

これらの海外現地パートナーとの共同出資によるファンド組成を第1フェーズとするなら、今後は外部出資者を募ることで大規模な2号ファンドを組成する第2フェーズへと移行していきます。

そのために、新ファンドへの外部出資者の募集体制を強化します。海外の各拠点にはファンド募集を専門とする人員を配置すると共に、国内ではSBIインベストメント、SBI証券、SBIマネープラザなど当社が有する国内法人ネットワークを最大限に活用します。

これらの取り組みにより、今後期待される各国市場の回復及びさらなる上昇に対応できる投資体制の構築を図ります。

金融サービス事業の 国際展開に一層尽力

SBIグループは海外金融機関への出資を通じて金融サービス事業の海外展開を進めています。2013年6月末時点において、銀行では韓国の現代スイス貯蓄銀行に89.4%、ロシアのYARバンク(旧オビバンク)に50.0%、ベトナムのTien Phong Bankに19.9%を出資しているほか、カンボジアのPhnom Penh Commercial Bankは金融当局の承認を獲得次第、現在47.6%の出資比率を90%程度まで高める予定です。

証券会社としては、カンボジアのロイヤルグループの証券事業子会社と当社現地法人の合併で誕生した日系唯一の総合証券会社であるSBI Royal Securities(出資比率81.6%)があるほか、インドネシアの大手銀行系のBNI Securitiesに25.0%、ベトナムのFPT Securitiesに20.0%を出資するなどしています。

また、損害保険会社では中国の天安保険社に3.0%を出資しています。

VOICE



Tan Kian Hwa

SBI VEN CAPITAL (シンガポール)

S BIグループの海外投資部門において、ファンドレイズ並びにアジアを中心に優れた投資機会を発掘し、投資後育成して売却するプロセスに従事しています。この仕事は、様々な業界の経営者との交流を通じて多様なビジネスモデルを知る機会に恵まれており、人脈の構築や、異なる視点の吸収、そして何より直観力や判断力など様々なスキルが求められ、毎日が非常に刺激的です。

SBI VEN CAPITALはグループの企業生態系を日本の外へ拡大させていく役割も担っており、幾つかの案件に取り組んでいます。最近の案件としては、SBIファーマのインドネシアでの事業展開があります。いずれの業務においても、最高の結果を導き出す鍵は我々の結集された知恵とチームワークだと思っています。

これらの投資先については、日本で培ったインターネット金融サービスのノウハウを投入していくことで、企業価値向上につなげていきます。

例えば、インターネット時代が本格化するロシアにおいて、同国の大手総合金融グループMETROPOLグループ傘下の商業銀行であるYARバンクは、ネット銀行化を推進します。2013年10月のインターネットバンキングサービス提供開始に向け、情報システ

ムの要件定義が完了し、開発を着々と進めています。

また、インドネシアの国立銀行4位のBNI銀行子会社、BNI Securitiesには日本で経験を積んだ人材を当グループから派遣、経営の合理化を進めると共に、インターネット取引システムの改善に取り組んでいます。なお、BNI Securitiesとの接続によりSBI証券では2012年4月からインドネシア株式のリアルタイム取引が可能となっています。

アジアを中心とした海外金融機関への出資状況(2013年6月末現在)



韓国最大の貯蓄銀行、現代スイス貯蓄銀行を子会社化

SBIグループは2013年3月に韓国最大の貯蓄銀行である現代スイス貯蓄銀行の増資を引受け、連結子会社化しました。現代スイス貯蓄銀行では従来、法人向けの大口不動産担保融資やプロジェクトファイナンスの拡大に注力していましたが、今後は事業戦略を転換し、ネット化を推進する一方、個人・法人向け共に徹底して融資の小口化を進め貸倒リスクの低減を図っていきます。そのため、既に当社から役員を派遣し、韓国においても優秀な幹部人材の採用を行なっているほか、厳格な資産査定によるリスク管理の強化を開始しています。

韓国の貯蓄銀行は商業銀行と消費者金融の間に位置づけ

られ、8~30%の貸出金利で融資が行われている魅力的な市場です。そこで現在は、金利20~30%の個人向け無担保ローンの貸し出しを増やす一方で、新規の定期預金金利を引き下げて預金調達コスト(平均4.3%)の削減を図っています。今後は預貸マージンが拡大し、収益力が強化されていくと考えています。

今回の増資引受(総額約202億円)後の現代スイス貯蓄銀行グループ

